

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

国語 科目 文学国語

教科： 国語

文学国語

単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～E 組

教科担当者：

使用教科書： （ 文学国語 数研出版 ）

教科 国語

- 【知識及び技能】 実社会や実生活に必要な国語の知識や技能を身に付けて、適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 考える力を身に付け、それを他者と伝え合う中で表現したり、考えを広げたりする力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な文章を読んだり、味わったりすることを通して言語感覚を磨き、国語の力を伸ばそうとする態度を養う。

科目 文学国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○社会生活に必要な国語の知識や技術を身に付け、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにする。	○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できるようにする。また、それらに対して深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりできるようにする。	○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うこと。また、その取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする。○言葉を通して他者や社会とかかわろうとする努力を怠らないようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数	
		語	書	読						
1 学 期	「山月記」（中島敦） 【随想を読み、良さを味わう】	・本文全体から、虎になる前の李徴の人物を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。	○	○	○	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	○			12
	第1学期中間考査			○						1
	「鍋セット」（角田光代）	・「私の住むことになった部屋」は、どのような部屋だったかをまとめる。 ・「母」に対する「私」の心情は、どのように変化しているかを時系列に沿ってまとめる。 ・「私」にとって、「鍋セット」とは何であったかを考える。 ・誰かからの贈り物で、大切にしているものを提示して、三分程度のスピーチをする。	○	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。	○			7
	「永訣の朝」（宮澤賢治）	・「兜率の天の食」は、「天上のアイスクリーム」とあったものが後に書き換えられた表現だが、このことによって読者が受ける印象はどのように変わるかを説明する。 ・「わたくし」の「いもうと」に対する心情変化を整理する。 ・「松の針」「無声嘔吐」も合わせて読み、宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりについて、感じたことを話し合う。	○	○	○	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○			6
「物語のおわり」（湊かなえ）	・「そんな状況」とは、どのような状況を「僕」の家族の現状を説明しつつまとめる。 ・「工場を継いでくれ」と頼まれるのと、「拓真のために、お父さんが決めたことなのよ」と言われるのでは、「僕」の心情にはどのような違いが生じるかを考える。 ・「僕」の考える『空の彼方』の結末を読み取る。 ・『空の彼方』を読み思索をめぐらしたことで「僕」が気づいた自身の欠点は、どのようなことかを説明する。 ・『空の彼方』を読む前と、読んだ後で「紙束を置き、カメラを手にとった」ときとで、「僕」の心情はどのように変化したかを説明する。 ・『空の彼方』の結末を自由に考え、八百字程度で書く。	○	○	○	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 『物語のおわり』の中で『空の彼方』という小説がどのような機能を持っているかを踏まえ、学習課題に沿って『空の彼方』の結末を創作しようとしている。	○			8	
第1学期期末考査			○	○						1
手紙の書き方	季節に合わせた表現を学ぶ。		○		はがきを書く時の注意点を理解している。前文や末文を意識して内容を書いている。相手に配慮しながら、書こうとしている。	○	○	○	5	
2 学 期	「こころ」（夏目漱石）	・「私（＝先生）」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。 ・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	○	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○			15
	第2学期中間考査			○						1
	「こころ」（夏目漱石）	・「私（＝先生）」のKに対する心情を整理する。				人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について	○			

2 学 期		<ul style="list-style-type: none"> ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。 ・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺 	○	○	○	<p>理解を深めている。</p> <p>「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。</p> <p>作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。</p>	○	○	○	11
	古典と現代語訳/源氏物語	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの現代語訳には、表現上どのような違いがあるか、原文を参照しつつ、比較の観点ごとに分けてまとめる。 	○	○	○	<p>文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</p> <p>「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。</p> <p>三つの現代語訳の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。</p>	○	○	○	8
	古典と現代語訳/探究の扉 黛変源氏物語	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書始め」の場面に関して、『黛変源氏物語』と原作『源氏物語』はどのように異なるかを説明する。 	○	○	○	<p>文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p> <p>「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>粘り強く『黛変源氏物語』と『源氏物語』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。</p>	○	○	○	8
	第2学期期末考査		○	○			○	○		1
3 学 期	「舞姫」（森鷗外）	<ul style="list-style-type: none"> ・豊太郎の置かれている状況を四つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・豊太郎の「弱くふびんなる心」は、彼のどのような生き方に表れているかを考える。 ・エリスの豊太郎に対する心情変化をまとめる。 ・この作品は豊太郎の回想手記の形式をとっているが、豊太郎が手記を書いたのはなぜかを考える。 ・森鷗外『普請中』を読み、『普請中』の渡辺参事官・「女」、『舞姫』の豊太郎・エリス、計四人の人物像を、比較しながらまとめる。 	○	○	○	<p>人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p> <p>『舞姫』と『普請中』の登場人物の人物像を粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。</p>	○	○	○	20
	学年末考査		○	○			○	○		1
合計										105